

CASBEE神戸ver.2 新長田合同庁舎		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						4.0
Q1 室内環境						3.9
1 音環境		3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 騒音	目標値を45dB以下とする。	4.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.63	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.37	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	窓システムSC:0.3125、U=3.35W/mk、外壁その他:U=0.98W/mk	4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		4.4	0.25	-	-	4.4
3.1 屋光利用		4.6	0.30	-	-	
1 屋光率	屋光率=2.54(4階執務スペース)を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 屋光利用設備	センターボイドにより積極的に自然採光を確保し、照明負荷を低減	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.28	-	-	
1 屋光制御	各階に庇とブラインドを設置	4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	基準照度500Lx以上	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	通信機能付照明器具を採用し、照明器具単体での制御が可能	5.0	0.27	3.0	-	
4 空気環境		4.9	0.25	-	-	4.9
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		4.6	0.30	-	-	
1 換気量	30m ³ /h人以上の換気量を確保	5.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	必要外気量の2倍以上の外気冷房の採用	4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	給気・排気の方角を変えて、6m以上離隔	5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	居室のCO ₂ 計測を行っている	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	4.2
1 機能性		4.7	0.40	-	-	4.7
1.1 機能性・使いやすさ		4.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペース12.1㎡を確保	5.0	0.31	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	OAコンセント50VA/㎡、専用EPS各階4ヶ所を確保	5.0	0.31	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす。	4.0	0.38	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	執務スペースの天井高2.7mを確保	4.0	0.31	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースに対して1.54%のリフレッシュコーナーと自販機を設置	5.0	0.31	-	-	
3 内装計画	コンセプトに基づく内装計画とパースによる検証を実施	5.0	0.38	-	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	外装まわりにメンテナンスバルコニーを設け維持管理のしやすい計画	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	屋上に設備架台を設けメンテナンスに配慮	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.1	0.30	-	-	4.1
2.1 耐震・免震		4.6	0.50	-	-	
1 耐震性	建築基準法に定められた50%増(Qu/Qun≥1.5)の耐震性を確保	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数一覧表より耐用年数30年以上の材を採用	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数一覧表より耐用年数20年以上の材を採用	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			3.6	0.20			
1	空調・換気設備	重要度の高い室の空調・換気を独立した系統としている	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、緊急排水槽の確保、雨水利用の可能な配管設置	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.7	0.30			3.7
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30			
1	階高のゆとり	基準階階高4.0m	5.0	0.56	3.0		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.18	4.0	0.44	3.0		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性			3.8	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	将来増設分を加味した配線スペースの確保、点検口の設置	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	将来増設分を加味した配線スペースの確保、点検口の設置	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	更新ルート、予備スペースの確保	5.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観形成ガイドラインに則して景観に配慮	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30			4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		中庭、ピロティ、庇の設置による豊かな中間領域の形成	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.9
LR1 エネルギー			-	0.40			4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		高断熱化、Low-Eガラスの採用	4.0	0.20			4.0
2 自然エネルギー利用		センターボイドを設け、自然採光・自然通風を積極的に確保	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		BEIm 非住宅 0.60 住宅(専有部) -	4.0	0.50			4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		送風量制御	4.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			4.0	0.20			4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00			
4.1 モニタリング		中央監視により計量細分化	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制		消費エネルギーの予測	4.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング			3.0				
4.2 運用管理体制			3.0				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.9
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		節水器具の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60			4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床材タイル、ビニル床シート、天井岩綿吸音板	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		フローリングに対応品を使用	5.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+仕上げ、OAフロアを採用し容易に分別可能な計画	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない材料を選定	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70			
1 消火剤							
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつDWP=1の発泡剤を使用	5.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			4.0
1 地球温暖化への配慮		高効率熱源、LED照明、各種省エネ手法	4.2	0.33			4.2
2 地域環境への配慮			4.2	0.33			4.2
2.1 大気汚染防止		全電化	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		屋上、地上、壁面を積極的に緑化	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減							
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33			
3 交通負荷抑制		駐車・駐輪場の適正台数の確保。一方通行による車路構成	5.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制		自動販売機はベンダー方式とし、ビン・缶類の減量化を計画	4.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.6	0.33			3.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	0.50			
2 振動							
3 悪臭			3.0	0.50			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.7	0.40			
1 風害の抑制		周辺への風シミュレーションを行い、一部に風環境の改善を確認	4.0	0.70			
2 砂塵の抑制			3.0				
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			5.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		グレア抑制照明器具の採用、スケジュール制御による夜間消灯	5.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		外装ルーバーにより反射光を低減。近隣への光害検証を実施。	5.0	0.30			